

## 平成 28 年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

日時	平成28年 8 月16日 (火) 午後 1 時30分～午後 3 時45分	場所	本庁舎 3 階 大会議室
出席者	推進会議 委員	内田委員 (中京大学経済学部客員教授)【座長】 山本委員 (清須企業懇話会幹事) 野村委員 (愛知県教育委員会文化財保護室室長) 北山委員 (愛知県立新川高等学校校長) 舟橋委員 (愛知医療学院短期大学学長) 山田委員 (中日信用金庫理事長) 平野委員 (日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表)	
	清須市	企画部長、事務局	

## 清須学推進事業について

山本委員	ターゲットとして、学校の教職員を取り込むことは大変重要。教職員は若い世代にアプローチできる上に、生徒は毎年入れ替わるので効果が大きい。
野村委員	特に小中学校の教職員の取り込みが重要。県では朝日遺跡の副教材を作製して、学校へ配布予定である。講座は当面座学中心で進めつつ、将来的にはワークショップを実施してもよい。朝日遺跡の新資料館はもっと入場者に利便性のある体制で臨みたい。
北山委員	学校目線でいうと、マイスターは外部人材であるほうが効果が大きい。ただし、講座の受講は勧めたい。本校の「総合的な学習」の地域探求については、マイスター認定者の方に最優先でご活躍いただきたいと考えている。できれば、テキストはデジタル化してほしい。
舟橋委員	講座やシンポジウムは教職員にも勧めたい。将来的には本学の教養演習にマイスターの方や朝日遺跡の学芸員の方に来てもらいたい。
山田委員	「感動」が大切であることを再説したい。ガイドの方の肉声は心に届く言葉が多い。講座の進め方については、フィールドワークが大切。
平野委員	受講生の 40 名という枠組みは、どの程度の手応えで設定されているのかは気になる。マイスターはあくまでも合格基準を超えていれば合格なのか、10 名という枠が優先されるのかイメージを共有したい。

## 【内田座長総括】

- ・ 学校の教職員を巻き込むことは重要。とりわけ、まだ志向が固まっていない小学生と地元目向けられる大学生（短大生）を対象にすることが有効。
- ・ マイスターの認定方法として、試験という手法はやり方として重たくなる。問題設定や合格水準の設定について、講座修了試験は低く、マイスター認定試験は高く修正する余地があるのではないかと。
- ・ 教材のデジタル化は可能であれば対応すべき。
- ・ 清須は地域資源が豊富なので、有効活用すれば定住化につながられる。